陂元紀行下 畢

人著

和書門
類
三一一〇九
號
二三七
函
一〇
架
二
冊

39

内閣文庫
和書
類
三一一〇九
號
二
冊
一七七
函
一六
架

内閣文庫
番號 和 31109
冊數 2 (2)
函號 177 964

国立公文書館
National Archives of Japan

閲39

浜元紀行巻之下

神宮文庫

十日天氣よく風和らぎて海岸に出て熟田の
天竺屋あり。しばらくいりくみたる所に入る。
しばらくひ[illegible]一ばの口に一場小尾羽の家士[illegible]
[illegible]せるもの[illegible]と[illegible]
四[illegible]帳をとる帳の故に[illegible]
[illegible]
帳をとり[illegible]
席上に坐せるごとし。[illegible]
横濱[illegible]と[illegible]
[illegible]

神宮文庫

うしろは幕の山よりつゞきひがしは四方の海原をみわたしてさゞ
なみさいはえてなかし此は卯の刻なりけれは船よりのりし出
なるほどに桑名の宿につくは海尾張伊勢の堺なりさるに
右神主の大宮居あり堺つのさかの町の名に片町古律
名町なといふあり小田屋といふ家名めかし堺つを出て新町をとほりて
めぐり六ツ二ツありて鏡照山といふ寺ありしはらく一郎を
出て諸所町より天武天皇の宮ありといひつたへしところ
なきよしあり一体の弥陀如来あり矢田町をとほれは音隆寺
寺といへる看板ありいでゝ右道を登りて鉾屋もありて
彼は引き跡なり跡こは松平下総守なり 初紀藩の公子にて此こと〳〵に詩文をよくし学文を好む風流公也
八幡宮のおもてしく橋江町といふ町屋川の橋をとうりて右かけと
いふ所をとほれは家々の女松のかさを焼て蛤をむしくせし朝川の

橋をわたり朝明川を越え富田(とみだ)の立場にてしばしやすみし焼蛤を喰く
店のうちに酒屋といへる家名の店家にはあげ置て有とありて大き
なる中ぐりなり初冬の比の旅ことによろしかりけれは時雨蛤といふ
朝川みつえ川三重川を訓なとをとうりて四日市の宿につく伏見屋
伊豆屋の家にやどる日さむくして末の村出ぐる比なりし
席上の家に倚松風の三字勝忠筆とあるも手跡見えしをす
是は西村馬曹撰冬沢の長なり去年七月十日に
うせぬしとそその身なりしその子今の庄右衛門を襲号す
家に伝る所の器あり西村勝左衛門重氏といふもの三河尾
の陣にて名を大浦田中吉政につかへし天正十八年豊臣殿下に
小田原陣にはせさんしてその功あり殿下より器を賜はりけれ
なりその後田中氏

神君に奉しまつり給ひて酒盃ありて酒盃をたまはりし
ものなり重氏仕官の志ありて伊藤小四郎りくたのを重綱より
此駅の長となり馬曹殿小いくらりて五世孫今その盃を
うけて任二すぐり不思議内なく荷絵よ相の紋あり
代小能公義の記ありて許欲多くあつあ多中三軍
麾下績誰及折衝魁俠骨香何處猶留一酒盃右題西村
茂貞家蔵酒盃銘青光緑左更とあり富小路殿後桜富法
貞直にたりしいそのあ行達左馬頭伊勢守を酒肴
もて来りうる西村の親しきものそ取出し来
まつるものなり
吉宗様より板明くいでらの書付右のうた祖宿の社
ありたる来国光義長といへる名刀諸家伝記

橋の板

いつる家名ものしきものの小刀なり数ものしきものの
年長さ五尺より祝ひ人白ものと上野津へ出るとうべりを
くたの山のたに八幡宮ありけあり数の橋をもつくさば
橋の欄干のさ白長ものとうぶり橋板の上ハ九くなりもの木代
水ぬさありくよ洋水あり男板ふしいれもちいさ板橋く
杖衝坂ふりくかちより田くまれ八日市武蔵東海くかく
ふ時世のいつこありく御剣を解く杖よつさ水ふり若
ありとぞ我義うるよ歩りふしは杖つさ坂と落ちる
といふ坂ふりは坂たに芭蕉の俳ありこ八鐵砲ふる家
右のうち番馬渡りと紀せし俳と鐵砲 建盃 といふ建の
誤ふるれ八日市武蔵の中の雅武尾王と称主の祠と
ともに御母橋坂なりとふたの方十三所ばりに小倉村と

いふ所あり山辺赤人のすみける所なりとて猿丸といへる家あり所へ
禁裏試筆此歌に仰せられしと若嬬説に曰石素師
の家につき〳〵石素師寺此處つかりいふ赤猪水をけつる素
師といへる三字の額あり源為子所説筆塚あり其ほとりに
たの畑の中に牛石丸の数桜といふありしが今はかれたり
といふ此あたり桜多し右の田の中に坐比屋御申まれ
笠塚あり日本武尊白鳥陵此所なり土人あやまりて
ひよどり塚といふ此より紫に行く坪また山に杖つき坂の
下より左へ行く事やまに登る一といふなりまことや山辺村の
あたりは昔し鎌倉家の名馬生唼（イケヅキ）とききこえしも紫竹にて
とらん所の名をとこしく出下の古端あり冷泉為村作也
能川に沿ふて風土記にもひくけふ笠の宗もなけくなりの小路と

よまむなひし八紫ふとよらん海路をとられむとかりてこそ
ほかならあつて何地と思ふは八王子なりといふさて八中富田村之
あつ藤右此處も絵図に化粧庵用なりといへる礼あり
右の方に水車あり此あたり石川の渡りの所出来しく
こえく制札に令條をかきし末の方に石川の札をし
うらかく主殿をうけつてし依仰私領中下知此件といふこと
などと令條の末にかきたへてあり上にいはれの私領の制札
こまかくのこし〳〵いつくも川の石橋をわたり小田といふ所にいたる
光念仏堂あり左に観音堂あり川合橋を土橋をわたりて
松田の地蔵あり松田の坂をこえて亀山の城下へ入るに右川
ら塚の垂井あり坪つよいれて古き塚の由ある太夫
田や亀山横町をそこして左のかたに坂あり寺ある坂を

よりて珠つとおもへし坂をおりての意なり城下の市中にござい
あり旦角なる叙のものを行ふさげく湯豆腐あり往橋より
或ハ豆腐こんにやく等をかけるさまひなびたり然るに床
をとありて三條をとへば紺右衛門といふ此村の人なる
水車論坂ありと申しも出せし看板もいでしたのもしに
皇鏡を神とあり爰へ神ゑ十論川に還幸しあふ村の路人とぞ
右馬なるといふ此あとりなるへしたふ観音堂あり坂を
出かれて薮計村あり右滝をつたりくたのまれなるとし
川を関川といふ又三條をつたりく松の並木ある川をそり
は万十八町計して大屋ある鏡もとい小野村をそさく関の
爰の入口は追分あり是より南津波道と記しく名在そり
右に茶屋あり此爰小大槻ら身の多し柳並桜などと

出る所も山田まそ名といふ沢合の家も直温寛栗と
かくへきと寛栗とらけるもかりし此あたりの村字寛の等
なるへし未の刻ばかりに爰につく坂本家と傍作
なるあたりなり家は成趣の二字を松出とあり扉風に雪中
長清熱書往故人来まさ風信從太古心和得天真とあれ
栄濱書とありて書れまさ拙なしたの趣ありなる
へりけると関と名つくゆるは古へ浄源の関のあともあれど
なり野ほ探索をなしに見えぞまさ爰あふれや浄源
の関なんなりほそのこさし花のなけれ那とよまれ歌ひ
花をとらんぞ桜と名つかく今はありとをつくし思ひしく
爰のあるしは安井門さもせく家のたりくのたたかおさく
細さこちをとかどり出く向ひはこちき山なびそそり

九八大日の堂有八かこ玉といふ所へ寺あるさあり法之
とぞ云つるかるかれは橋ちさせるあり是を宇治川
の下流かりく北門上に琴今の橋うれり（実朝を忍さり九右本の九本橋ふれ書琴今の橋ふ）
鶯あと叩うに雅風のいやのあ所まうてめるに花て
いとうくしけかりやかくへの法師のあを笛吹大の神といふ所
十八日とまてまつらいうる神よりまいらん碓氷の関を
笛吹峠といふ所へ叩ひくはつれてりしく八日る此
くくさをきさきうに日市武のそうまてもやかたらん
左の法むづうしけふくさやうる芳花ほ彩をり
ホと俗りくのぼうりもて忘く夢みもの山更よ迷
といひりんもものおおきもおひあいやうるいりの松のをもてく
比丘尼のくうにいるかくへの嶋まに木の橋ふをりみきい

柱く根ふりさ〜出る校あるこありこれまさりと
やたをうべ〜忘ハはひ〜ふ有く緋橋のうを出きあるを
ふれうぞ陽ふりといふは寺木はりれうちり
あまくひあるさ言ふふり出てさ出のみ
ふうべ〜咲もつくさあハのこれら眠ふう酒を激碎ホ
のむといひりん叩〜ふのんまかふひ行んうたての美
の出やうふ〜て忘ひとふさみふをとり柱る木は
くをも懐ふりのやをあ〜れかうに一枚ふを
かくれるもやさけふりさてうはう〜ふりいれて
比丘尼流ふり庵よ比あいさ水ありふの所山ても四大所の
ふ前ふうといふあう〜寺ふる出丘ホ比丘尼ホいる
世ホ関の比丘尼ホうふとて紫の行〜大徳の宮殿し

なかにもさくらハ古色なかりし 桂昌院殿御帰依ましく(?)瀬田(?)
信仰の御ひよりてかくいつくしき堂とハなれりとそ 桂
昌院殿の御位牌あり寺ハ九関山宝光寺比丘院(?)といふ
此あたり古のむまやぢなりしよし松の一むらありそれ逢坂
の関の跡なりとそこにてひるけのまうけなりて
ゆく道はもよほす日ころく膝の中ゆらにつきぬるまで
くるまのうちゆられけるかなへしこよひ大津(?)にやとりく
くるかしもあけと苦しかりしは残燈とかけく語りて明(?)
八日晴天なりきのふかへし関の比丘尼堂のほとりちかく関の
比丘尼町といふ火燧(?)屋ある(?)水燧石(?)といへるなるところ
右のかたの茶店に志賀寺といへるあり一本の桜さかりにて
てさゝ波の志賀の山こえ(?)やひやはゆきくる山路[illegible]

野洲川たゞちになかれ我瀬(?)といふことをしられよりて
八十瀬とハいへるよし右のかたに大石といふあり宗祇(?)の
さる事ても山の中腹にあり野洲大悲石(?)といへるもあまたと
所や寺にはなとみえす(?)よりてら橋とてましりて前の茶屋
ちかく八十瀬川のなかれをのぞきく古法眼元信(?)がを
しられけるあつまやあり道より右のかたくらく
いりくみたるにむかひ木の山よりて怪石怪岩とゝなる
躑躅松の根ありかへしかたに曲てさとへめられ躑躅の名
所なりしは安渡濱(?)躑躅紅とちられにもつゝ詠
めたれ人のこゝろをなせる山みちとして絵よりはかつて
あまりなるへし古法眼とやらんか筆すそさへましこと
ありそれよりくつわ村をすきて坂の下の茶屋につきぬ(?)

人家より根をすゑのこす不苦列坂下松長久なるとみ
れるけしきあり是は小出信濃守殿領地なり
相沢の茶屋より東へ三丁ばかりの所に桃灯茶屋と出せり清水
際より箱根川へ流れこれも沢水より柳を植けく出る
川とあり八幡宮の鎮座なり相沢の社に三ツの石
坂あり石坂の右に弁財天あり右沢樂坐
ありて神主巫女なとゆかりの茶屋此所に人煙
多ありて石坂を上りて相沢の社へ詣つく茶屋
二軒中央流域は嬢命左右に男嬢命お殿像嬢命とて
嬢命お殿像嬢命とて相社は大山祇命相模国宮
ふとたまの命なり茶屋より箱根宿八町二十七間ふて

道狭くして清流水面を見さいて雨の日ことに
うるへしとこれなくなり田村川の社あり峠の茶屋八沢と
立場山にて礎酒うるもの多し紫陽花と石の出
塊あり左に法華山十塔あり安永年間石仏あり
不動堂坂とて元禄年の坂とあり
茶屋に茶屋の給とひさくまた絵馬
とり茶屋あり奇石と叫ぶ所あり
くださく田村川に橋あり橋番より橋と
つりくたふ田くれて橋番より橋と
出山の茶屋いりくも橋うる茶屋一ちゃ屋井一
人所橋不動堂と出せり出せり出せの茶屋
地蔵尊の所に年代天王の社あり いつの比建立なるや

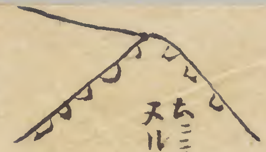
永の詠もこの田舎三世徒訳音の所あり又六地蔵を
三面と寄せたのゆくての左にうし松の尾川は仮橋あり
河原をわたし坂を上れば左に石あり松尾大明神
はたらきうへ大地の立端まていそぎゆく
とく雲とゝやめくゆく右に下馬札あり寺あり
林丘寺のよりて宝篋とよせられ一遍安寺をとゝる
芳草流の寺ゆくしらたにはりれとか
かしさて八幡中村ありたのうたにも又寺ゆきふ
寺との形ふるの尾の長しさあり野のうき妻ふ
絵のつゞひしまうのつゞきと連てあるハ安野海雁
ふといふ名もちあるをあきらけ生くなもむ
立隔あり大堂と云ふ所ふてうかはあるのかとりて

ら与て射ろうものと云潘安仁が射紙紙はあひあいとふ
されど農夫ふらかうりの気一とさくくらりくらの
養をくハ酒のむ山梁の蛇紙の付とはしらあるよいあて
もすれてあるあるを調してもあ野よ紙よとあき
むくとさけて三ちひ嗅くもしらふ角一とうさ
ふ笑うそうのようにられより左のうたをかりく
ふうふふあり布引ふあるといふもことりあり左岩
といふ所ありたのうくふ広ありるあきりの付に
いのれてふを投ると云ふいふ川とうとうて右に一の祥
あり出志兵潘重成といふもの、祥月く変宝年中
まうう石く細くたよまは文ふもうりあへうをとと
いそげどうハ所一その例ちうとうさあると伝ふ家相の

前洗れといひし余其の下宗忌く繁さなとむまの所
右のかたに八幡宮あり和名といふ所に斎王寨なることせ一町
ありきせんざい餅うる家ありといふ山川の橋を行て
北にの坂をいふなりて八松茂能出もちの所もなし之座生畔野
出てその上しを中にて坂をくだりて大池町なといふ所を
出て網笠茶なりなと名物之出しく蓋笠翁細工のあ
余外一切疵の薬のあり右のまたき薬といふ札此あまりなら
上つりた多くあり右に鴨長明菩薩薬師といへる碑より
岩鏡寺薬家旧跡なとあり大町さるくたのかたに
大岳のつゝみ亦大徳寺天満宮あり市中繁昌なりけるさかゐ
立場をこえてゆけて右に大岩寺山さて市場大脳山あれ
より右のかたにつきく岩山あり元としく茶屋なし

岩根山といふ岩根山の西にあたりくるめに東へく去ると
山とゆるさと三上山といふよしや湖水もをつきぬる
うましく田けでたに飯道寺山ましなれ山伏のつき
のよしいづくの立場とこえ横田川をわたりて河原の
ほとりにかしらし川のむかひ八なる山がりしくたかくなる
岩あり鏡目なきし碑あり此下に鏡岩といふ岩石あり
よきてこれより横田川をわたりし山岸をたかしく行けて
右の山のかたに山上広中なあり瑞應山廣徳寺といふ
寺西跡なれを伝教大師の作之といふ目見東水尾
いふ右の碑ありかのそより右のきとのそあれば
岩根山右にみて善提樹山右にかさなりて其の
中央に三上山さとりさそり田川の立場をすぎし

あら川の橋をわたりたる方に雲照山妙蔵寺宝山訶
為房に鏡香代とよめる碑あり是ハ三院といへる所にて
世のうさをよそにみても奥深くすむ月かげやまさる友
と詠みし所となんいひつたふなり其より落府名はれとか
なし　自是西淀領といへる石碑あり砂川をわたれば小橋
ありたま弘法大師二本杉といへるあり今ハ一本ぞ枯てなし
夜見ともいへる所にハ人家の門ごとに山水を筧とし馬に
のりたる人飲みゆくとも馬からおりをぞけり
あるハ唐子ならしありさまハ心太をさらしむへり夜尻とハ
いへり古のうしに名酒あり桜川といふ花のうしに然えよ
よろしく田花然して山に大なる岩あり砂川二つわたり
面るに水なし升村をすぎて自是東淀領といへる碑あり



並松といふ所の松うつくしとてうつくし雲といふ名もさし
うは名のこよ松原のみならず也と同じくめぐみかと
さるところなりきりきえく笑ところなりところに芝く
又自是西淀領といへる碑あり此辺に海老徒為定而にし
くやと云し札ある人家ところ白知川（グチ）をわたらく太郎
宿につく此に海宝寺山西寺道あり又東寺といふも
ありとぞ此辺の名もありしよく赤前法しける女房
男もまじりありこのみハ田村なる茶屋といへる名く
九日の朝とく出る此宿の茶屋つくり今まそこさ自
とハかかりて荒つたり家し出れより上り八比叡寺松会
池ある茶屋田花のうしに岩山ありむかし洞ありて清き
く今も石部の今も山といふなくハ石山の土をいふてけふ

[illegible]山の[illegible]川あり橋をかけて山のあいだをゆき
松の並木あること[illegible]海[illegible]て八十[illegible]あり[illegible]
ひらけ[illegible]橋をかけ[illegible]山をたゝ[illegible]川を[illegible]
ゆくに[illegible]人夫[illegible]
多くいきの[illegible]ゆくに[illegible]の人家
[illegible]
面影ふ似の[illegible]御免茶屋[illegible]川といふ[illegible]
[illegible]あり又[illegible]
伝法[illegible]身を[illegible]
とふ[illegible]あり[illegible]
[illegible]
[illegible]あり[illegible]
[illegible]

四影山根元寺定蔵

[illegible]せり土軒[illegible]せさんとふ門には[illegible]
[illegible]て[illegible]軒とふ家[illegible]
道を[illegible]庭[illegible]
又元[illegible]家とふ[illegible]
[illegible]
[illegible]
功徳[illegible]寺[illegible]
此庵[illegible]
驛より[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

さてふるき村といふありむかしある遊婦の脇を宮のほと
ばしりの水に感じくるをとらんとしてとらへ
人を酒をもあくるをふさものにせて人をあつまりも
とと利りつゆくをこころもて酒をあり菜飯と牛ふ
さて横ゝ是腐の四示といふりをこさけり狗川と
いふ川をつくりて八月利勝年義尚公ふたゝび城をこゝに
くもりをめしが高ゝよりくに是ゝ久りとさくをかの
宮太記といふものゝ中に此やうに所此川の上に自是南流
領とあり同川の上流ふ八菜飯と四樂ありて今いづれも
同川菜飯とよふ八菜より起もりとさくく候哉やと
いふ事ありしかの菜飯もしもしも四樂の是腐あ
ゝふものゝ中に保ゝつゝこゝふ同川もあ川ともふ保つ

菜飯もて菜をもてむめゝこゝふるれで二つとりて実ぬ
浴酒あり此酒の水とゝるゝ中ゝ寺より是如大器
宇宮志二月八日ゝ九日ゝ月とあり菜川とつくりて
遊客の妓酒あり古八番酒ゝ此ゝ八東海ゝ是ゝ
より古のゝ天橋ゝ菜所ゝ
あつくり大きゝ名ゝ名づけく晩ゝ候ゝ是といふ
こゝもゝくるゝもやとゝ宮をあつけゝ菜飯あり
自是ゝ此ゝ遊飯の八合ゝ
いふ示ゝゝれて此川ありくいゝ
ゝりの川ゝ
此あり此ゝ遊の玉川の
ゝゝ

右のかたにしもあれは大なる川といへる勢川をわたりゆくに
ふかき江に弁天の池あり此池の中島にむかし日本堂
ともいふ又なかれのうちかくれし所ありときくまことこその
林木のしけりたり池あり湖水にこそとこえてたかに
比叡おろしの中たる月橋の池ありて三橋と月橋とふ
勢川をわたりて大江村をすぎれは左に橋山あり橋本いく
そこよりすこしゆきていさゝか勢川をはなれて右に左は
山不動寺とてあり参詣人多く回の大橋は長さ九十六間
小橋は二十三間ありとぞ橋のもとに田楽屋といふ酒家
ありしもかの妻の由よりひとしき橋をわたりて
左のかたに一つの桜咲くころは道に茶の相の細ふ[illegible]
右は山の[illegible]のしくさゝふこよそれしこさつる

ありしてての酒家は名ちかくいこひくるよし田くいへる
そと問ふまことより十八町ありといふまでかなく
かくれ出て田く堅田の浦乃白き望にこえしか
やかてとくおりまでゆくまたのうしの眺まかせ
安塚へ三町ありて今井兼平の墓あり粟津の原にて戦死
ありしも此所なりとぞそこより流れとしまた一の雲
やくしをあり翁のすまゐし幻住庵も此あたり
ありとゆひしゆく堅田の城つまり入りて八大龍王の
やしろあり市町諸士の家も此中にゆくとて城つを出し右に
湖水こえてはるかに江戸人の居るの大木よりてきたる
此池をはなさくまて八大龍王のやしろあり右に義仲寺
ありて其しらむは似せあさるあるふうしてつと入也

九ニ半ニあり木曽殿の塚と并並せ半の前に墓あり木曽
義仲墓とありくまなる石燈に奉寄進徳音院殿墓前
とえらせり此墓の左に芭蕉墓ありひとつあり石灯に
元禄十三庚辰正月十二日崎陽素行敬立とありし義仲の
七回忌の年にそなへしその墓のうしろに幻住庵と
称して庭に一もとの椎の木ありそのむかひに芭蕉半
ありて翁の像をかけり門の内の右のうしろに草庵のごとき
ものあれ義仲寺なり此寺はもと巴御前のむすべる
庵なれど古へは巴寺といひしを弘安の比より義仲寺と
よべりと縁起にいへりさて義仲墓の側に松あり兼安へ
手向の句に松といふ名ぐくの墓には樒をも手向ましとあれは
松を手向ぐさとすべしとあれは木曽殿の名をうつせると松のかれ

うつあくその松の枝を手向し兼安かるはまよれるなりとぞ
木曽殿の位牌には徳音院殿義山宣公大居士とありし
そのうしろに萬安の位牌をならべて 岸照道光大居士
元暦元歳辰正月廿一日とは忌日なりとかや此寺の縁に其角か
出家芭蕉翁終焉記又ハ手向の蕉句集なとも出しおくへの
もともなりとよりと又く此寺の右の大概の時立庵
似たるひくかれる小中さし猿をとしろにしまれ候
小ほの海をおもひやれもあれも名をなかし不成ま候
人の志けさをたまはせりしるなるよそにしみなる侍
門を出られて右の方に矢橋の舟つきありさとを
松本の浜といひ石場といへる立場の酒家は多く湖水に
のぞみて走りつづけりつも涼み節といへる笑を聞して

湖をへだてゝ続く琵琶の海つゞきと見えわたる竹生嶋
比良山比叡の山そびえたるは比叡山延暦寺のふもとなれ
志賀唐崎堅田の浦までへだゝれとさゞ浪よする
湖心より北風あらく吹来く波よせて紀にれいさし
こゝの様あるは瀬田のながはしより舟をへて瀬田の橋の辺の
真帆片帆に出さるふさなかの瀟湘の八つの景にあるところなし
もことにうつそりし大津の町もちかくゆくまゝ人の出入
たかくしく家との門にけらとく旅する女をもむかひ
いたゞく旅人馬をもひさゝでかりて来の家かたへみち
よ大津の町かまや山中ぬく家に中のりぬめをかけ
ふるさとにいらぬへ入れて送くて出づり中あてしく椙の茶店
まし名をのみ残ても、をの茶屋へと出て市の中へ

近松寺坊のあとをさだめてくちのあとは山にとふかきこれに誓ひ
ありかれはいつくと聞はまた観音とて三井寺の
うちにいれしいふとそいゝて甲斐か寺を遊でりたのちに
関寺ありさぶらひつかさ女の菅の帽子をかぶりたいたゞく
見えるにかの源内ものよびひとゝ同じさまの地下
逢坂をよりて関の清水観音の堂ありたまふ勧堂ありその
うちに月見の尾花観音清揺にありけるはつあり
門を入てたちに十八明神の社あり又三尾明神の社あり崇が
奥のかたは女人禁制の地とこえて制札をとて村ぞとの
橋をわたりて行くにのきとなかにこれを堂あり陰を
これ蓮浄なるべし右に思益神あり、むかひに大きなる堂
ありこれ金堂くその側の井は、いはゆる御井寺ゆく三井よ

開伊井とも云ふ天智天武持統三帝の尾張小用ひし
水なるゆへ御井といふとあり堂は其のもとに清掃る
清とこれを慶長七歳し一五夏廿一日長等山圓城寺
長吏淮三宮と申こゝの和とりて一不れ掃くそり是秋
掃の方ふ人堂のもとのうるゝ山のもとの儀義を表御う
能ふ清掃ることゝ云ふ古清あり三さ能所まて女人守
りて四尺一丈さ三丈の能所一尺人一丈女子海のもとに
すれ日ありて掃掃の清るる不ルこゆ山つ蓮ひ
時山ゝ引あけこゝ分あすれめりといふられもあれ
しか今いにしへ八橋のもとに清の柄ある形ニこはる
面ありこれ二とも和女朱りて以清とるでし時清のもとに
とりるといふ今も七月十六日一日八女まうでゝ申ゝそ

久ふこゝの迎ふくしくいくもとへとゝもといふを
しらに米のうちよりすくもありく清の由朱とくしも
年をとうくりく三三つと清ふこて以れ紙を法
おれくり月ゝの年尾ふ上りく遠目清ふ日さてあて
これで女に兼ふの松ふくく松のもりのもを人のゆふ
ふるふ申ふ唐修のりもこゝりて家の白望あ
やうくり以れのもこれ以の方ともふあゆりく奥の深
いれで一年八年ふさこゝれて天祇祇原八のもふあり
尾花年ゆ尾八情ふあり迎松寺のもたむうは
花りふに申ふけいる花も申の原用ゆめいる世の慣ふ
のけこゝ女ともふふこゝりまして酔ふれこゝ分
二人ふ人ふこひつまこく朱以りふ上りふあこあゝの

風俗ことに古風なり[illegible]
のいのこの所にあり[illegible]日の[illegible]
[illegible]渡橋あり貞享年中より[illegible]例[illegible]
[illegible]種の菩提樹あり[illegible]の迫松[illegible]
[illegible]山の[illegible]石坂あり坂の
[illegible]の橋あり八[illegible]橋といふ坂をもくかの
[illegible]
[illegible]七層の石の塔婆[illegible]
[illegible]大院光徳安然大和尚の文字[illegible]
上人[illegible]柳[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]比[illegible]田[illegible]大津の町八[illegible]の
[illegible]の[illegible]
[illegible]
迫松[illegible]
菴堂あり[illegible]石井あり迫松御坊[illegible]大津
の河[illegible]乗燈の[illegible]
同[illegible]つらなる[illegible]て[illegible]の中より八[illegible]の南
[illegible]日[illegible]
十日天[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

出元山麓を北へ一町ばかり登ると
とゝ大津絵といふ絵師ばかりにまゝつくこゝに出ちゝ山き
り清水ながれいでゝ冬も夏もあるゆへ国分寺
縁起に云とあり又弘法大師火除名号石ありの石れ
坂道坂ありて右のゝこゝ八畳ばかりくいとゝ
くらゝ一丈ばかり道坂常夜燈ありとそこに石ふの
上に縁起大師の祠ありたの所ことらや四軒所井に大和
大掾さゝとゝさしれ南坂をもれて大吉所ありあ
人家の形ゝ武家くゝみくゝた井ありとれ走井と
いふとゝ人家の左中に清水ながれ今やなくらんと
詩一首月の詩も出ひやゝ和石橋とゝりくたの方に
性霊院寺ゝの人家ゝ大津絵茶屋清水とゝさく

ゝ年ゝ行く道ゝの奴法ゝいくゝ三橋人民八代人
街道あり甚出上人四詩ゝ人民ゝとゝ山城迫江
の出海といふ山あゝりとゝ山科といふ田畑の中ゝ人家や
つゝふりゝく辻ゝ三ゝ人ゝの家の鐵ゝもくゝんとゝて
大石何ゝかゝれ居ゝんもゝゝりゝゝ石橋ゝて
もゝ右ゝ法明大師の名あり天暦御命ゝもゝゝ
奴茶屋といふ三橋ゝ行くゝれて右の茶屋ゝゝき
茶の張をかゝれり西園寺家とゝやいゝ人ゝ
ゝとゝくゝゝゝゝ石ゝ三橋ゝ人ゝ茶ゝ奴と
ゝりゝゝゝゝゝ右ゝ吉祥山安祥寺あり右
三条通ゝ条通六条大仏殿ゝ右ゝ
右のゝゝゝ蓮如上人の四詩ゝ所ゝゝ桜ありゝ

竹の林よりうちを数のたといふなのうたに言さしあり
天智天皇の御陵ありしハ雲うくものもうくこ野田の
岳の坂を上りては左の山のそばに一丈の塔ありとうち
と唱出せり。岳のうへこまいりぬへき所とうるの
左のうへ宮法一仲基あり此一仲ふかい年といへる
ものとかうり出しくうりあつるのうちもうち彩
れく伝記の粗高るあり紀年の言葉ふかも
ふかい風流風小紀せ下れく風伝をうつせ
遊宮の沈一さい林ゆせ下もしもものかれ
つれくその涼いよくく遊く下宮巳人の曲おせり
ものうのうりふかうとうとをあ松といふ松の所ち
うふしく海栗田に入いれ左ふ仕宮陽あり車道

ありく牛車のさしてゆくるあつうし従来の男女の
ありさまも目ふれしふのようひよりうく邪のを
ふりうりくしく淀橋の浮ちといふ所よりうくたのうたまと
ふうふ茶屋あり立ちて旅の仕方ぬさ久可敬あり
小神小麻の上下きうくく鄙の中ふくく坐ゆくくれん
右に三宝寺の左あり左り道ま川地蔵その道あり左に
彩基業流の剣出せめへ海原沈堂左ようこ宝寺
白川左あり左今の人家張りくうこの大橋ふ所
かの塔四方府ふ名をちうあ一巻法師ハいで
ちうこうとふふこの沈所のものありくうぞもく
かこれかくの仮橋とりうもふいふ一それうり不

同代の屋敷へいり（牧北海道忠精）ゆかせ御用のもの共ゆき
大坂へむかふとて京都を通りにむかひ西町奉行
曲渕甲斐守景露　東町奉行　遠川越前守（後尹）の屋敷へ
たづねられ日も暮れ候ゆへこのたび一応しらせ
ふしんの為やはり弓ん（ママ）とくみもの張をいたし
其外家花の活をとられ候ゆへ沈丁のむらひ小若安海土
の文御花天海宮の文あり乾臨園のいろ〳〵を出ひそ
ら紙に絵画りの大活を四さ巻家海苔とん巻屋の家を
巻き紙巻の張紙のもをゆく冠者屋といふる家あり
祇園の社まをつ〳〵つ巻にいつれて花を前置しる文
をとつ〳〵ものく人とともむたれたる華簪をけつ〳〵
庭にちく　家ふる屋敷の四方といふものふく板ひ

酒のこと女こも北屋敷さる者ひ海の簪のちは
うれさるさ母の人あるさあり〳〵おをびく屋敷さる
しあり二に三長板を塗へ華りくさる者七程家に者ふ
似のようひうり地ちくめ紙りくあり〳〵と出ちに
稗をちつ〳〵華あり〳〵ふ〳〵ちの屋敷ちもの
海海のぐし紙家の社のちの方より知恩院小
いりくちに山門と華花山といふる家あり八重一三の家
さ〳〵ちれくをふちけいるん紙もものちふ〳〵りく
花のちちに双林寺あり四方海ほ〳〵れと先をそさく
ちちくしつ八坂の塔のさをちもかの清光堂平式絵と
試しるまでたひ出さ家世あり〳〵りの人物とのの人形と
ひさく家の孫の坂八小もふんと先ちの世めくふ屋ふつ

[illegible]

東山清水寺鐘

南無阿弥陀佛

大勧進[illegible]鉢上人

文明十戒年卯月十日

大工藤原国久

天下泰平

国土安穏

一方檀那

所願成就

南無阿弥陀佛

乃至法界

平等利益

良善

[illegible]所　大法師思善
大法師鎮芳

于時奉行　律師宗慶
阿闍梨宗圓

[illegible]

清水寺舞臺

寛永拾酉歳　十月吉日

金寶珠

とありて八あり[illegible]に人[illegible]たけ[illegible]れて流[illegible]そう
しよいとあるやうにこそ[illegible]を絵馬あり法隆の西入も
[illegible]あり永應元年未卯月日 辻村茂兵衛筆宿坊成就
院とあり[illegible]しく[illegible]
[illegible]高羽[illegible]のとふる堂の上より採牛[illegible]
[illegible]風[illegible]
[illegible]
[illegible]坂[illegible]
[illegible]

西大寺の堂あり[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

豊國社 奉寄進慶長元甲辰年
八月十八日
三位局

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

釈迦長五丈九合の鋳者ハその半を減し四天王の像ハ又
その半を減せり光中の化佛ハ百躯とかや端厳微妙の相
よろつの佛像の及へくもあらす仏ハ大仏のみけれし記
とれくらうしかたくにいたりてや凤志を償ふに似たり
名にある通天橋ハ楊行十二間二尺深一間四尺渓より
家ハ菩提の禅師の事くとて橋の本より空しきく香恋
うましのありさまくいこひくしつひの橋とこれて外をに
橋なりそれよりて東山いなりよまうて泉涌寺に又しせり
たつのたる遠りれてゆんたる稲荷たを首にゆきよく源案にいき
れどもまつえん没法師の法志のむしく端光寺ハいつくなる
んといふに宝塔寺のあなりときてく宝塔ちかきもいて海
行しけれと聴くくものしまち原に培志もつれぬれと

宝塔寺のつのあたより古のこと細さたをとゞめてゆけるかせう
あるつなり葷酒を禁ぜいしるしにて八法花律あつ下馬よ
いりくるにたのこにたまあり僧一人夕の修よむしよりあれく
庫裏とかくりしさ下よ出つれよる僧れありしとこえく元政上人
の墓ことこうぬるにたのこゝろりとふ細さたとことふゆき
られて本堂よのかりしなりけよかこひしく竹三竿さしてり
あれ香炉をおく石部の書ハ当なくし元政上人の墓之
とのうに張もとともうしたあまつるこひぬかつきくうらいて
かへるふもとみるよらえのせしたの家一つあとうふて庫裏
なる僧にあつて上人の所著ハ何よといひすくていさき
それでは日八半の半るなへくしなれより伏見まで行たをし
とりしと聴くくものにいさあつれよくかきのせられ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しひたるうらいつるい春雨のけしきなりと袖のぬれもよし

外の面は笠ぬぎ[illegible]

品川海天筱屋鍵句　兒俶　吉見義方　榊原士立

海天春雨正冥冥　覃驛路を塵　柳色青　俶

今日離筵須盡醉　義方　醉来惜別金前庭　士立

うんすいやうそ石を生き油の浦よりあつめ氏らんの岩義方

大海の酒をいしく解く興の中より行りて

のうみのかりそめ日さすめ夷曲あるうれ人も

こゝ名酒のこゝろ一六名九つ[illegible]氏いつこんき

戸塚の宿をもさ[illegible]げうう[illegible]いよ不ふく一本の

桜ときいてゝうをとゝうゝ

くるゝやゆくてゝるゝ[illegible]旅[illegible]ゝ花の咲を望比

遊藤澤山

此寺田称清淨光新花帶雨傍香堂至今猶示遊行

跡藤澤耳風吉道場

うゝう桜の花さうるゝ

雪雨ゝ[illegible]ゝ[illegible]の玉桜八の花ゝ[illegible]

南郷魚鱠

不食南郷鱠安知東海鮮閑樽繞下箸一醉瓦盃前

過小餘後賛石

松林盡處又人家籬畔桃花雜菜花驛路行過梅澤
去遥聞海上浪淘沙

過函嶺

雨霽函山紫翠凝莓苔路滑石崚嶒關門百二應須
固天險尋常不可升臨水每緣青壁下攀林又入白
雲層怪來笑語聞村落勸酒胡姬檻可憑

其二

天正神兵下北城徒傳五世北條名崖餘二門祠壇
古影落雙峯鏡水清猿狐已愁蛇倒退烟霞無盡驚
哀鳴欝紆高岫過關去紫氣遥生富士平

三島道中遇関叔成自南紀還

東去西来思萬重途中傾蓋喜相逢行過三島見仙
客来自紀南熊野峯

浮島原望芙蓉

都門日日望芙蓉日日遥隔萬重峰出都三日微雨
暗春雲靄靄緑陰濃擎首芙蓉不可見不知何処
秀鍾今朝早發沼津驛両行夾路数株松時裹轎簾
望咫尺芙蓉一片雪猶封但有蘆山横大麓纔開半

面美人容西子捧心顰翠黛葉公好畫見真龍行〻作
失蘆山色大麓層雲欲溫胸八葉芙蓉屹相向轎夫
下檐客駐節欲見芙蓉真面目會向浮島原頭逢

田子の浦とうち出でて見れば白妙の富士の高嶺に雪は降りつゝ

薩埵山下酒樓

薩埵山前望嶽亭魚標酒旆接前汀烟波隔斷蓬萊
路一帶連峯黛色青

清見寺

清海閣頭祇樹林青松遠映白沙深漁舟驛路杜荀
鶴曾入征東軍監吟

三穗松原

古松原上一漁磯神女翩躚掛羽衣謫在人間何所
樂紫煙深處去無歸

年月いとゝ久しくなりぬれど
君に心をかけわたすかな
美の世のためしあらはすこゝろの
度大猪川

日落長亭至島田西風吹雨暗春天岸頭懸火明於
晝直度洪流大豬川

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三日過袋井驛狂風大起

三日狂風驛路塵埃曲野居酒店遥知故國比隣

會樂飲浮杯少一人

度天龍河

大小天龍古渡頭招招客子競行舟　狂風一起揚沙礫不似流觴曲水遊

宿濱松驛

遠江征客度天龍洛水蘭亭不易逢旅館殘燈思昨日長風吹斷海濱秋

やとの字の外とく濱松の者とらいろり

[illegible]

今切渡舟中作

紫田洲渚古松枝絶海長風命楫師　千古波瀾同一碧至今猶憶錬公詩　僧虎関師錬詩云左海右湖同一碧長虹併飲両波瀾

[illegible]

観潮坂

行上観潮坂一層高一層遠江七十里遥指一孤燈

赤坂のもゝ[illegible]大江定基[illegible]

家を出くもろこしゆく人の[illegible]

岡崎城一名龍城

麗譙高櫂挿長空二十七盤山郭中憶昔龍城雲起日三河草木八州風

矢くまをとゝ[illegible]

[illegible]

度五木海

布帆阿那駕長風萬里秦滄指掌中解道船如天上坐回看春水遠連空

又

朝蕨蓬莱宮闕傍烟波縹渺帶暗光長年三老齊相
報繫纜城頭昊勢陽

西村馬曹谷貞字節南者四日市逆旅主人也以去
歳十月死其弟將其子見慨然成咏

長亭短亭生死路東去西去馬蹄塵光陰百代為過
客天地誰非逆旅人

ちゝ子の渡りとさくよ雲とそらて世ゆ
ちさくきいつこと光そ名月ちゝ子ちくこ

関驛尋花

曲徑尋花入下く伐木音橋隨流水小松抱故関深
猶有黄門詠長傳芳樹吟低回不敢過休坐一株陰

京極黄門の
ふるとすてゝ花のかけとの
ゆ
ゆのくいそをふゆ弁ゆ花のもとそれ

関驛夢還故鄉
驛舍孤燈耿一床暫時飛夢在家鄉分明親戚老情
話不道江山千里長

櫛筆山

櫛筆山頭紫翠迷當年画史不能題茂林疑入麻源
谷躑躅如過五渡溪

行經鈴鹿山

驛路鈴声度鹿山阪頭征客苦躋攀　口碑猶說將軍
事不使鬼神攘此間

きゝしらぬ　えとの花一枝とをりく　雲の
とゝ　ほとゝぎす　ほのかにこゑ　ふれて
きゝしらぬ　えとの花一枝とをりく　雲の

[illegible]田橋望三上山　山一名蜈蚣

蜈蚣嶺秀翠煙重一下有長橋似臥龍行自琵琶湖上
望宛然東海小芙蓉

暮春登園城寺後山

園城精舍帝城隅近市浮烟古一區翠黛晴開馬蜈
嶺蒼波春澹鸕鷀湖百花時節人相麗八詠風光賞
自殊昏黒上方如不至寧知絶頂有浮圖

日の圖ゝ　[illegible]

花さきいそぐ

春ゝの圖ゝのさゝ一ゝ　[illegible]

入京

三條廣路二條城行度長橋入
帝京不識　禁門何處是紅塵靜處彩雲生

神泉苑

舊苑神泉長綠蘋迎風猶憶昔時春唯餘善女龍
廣不見乾臨閣上人

祇園酒壚

沿下祇園花滿樹淮南佳味客傾盃欲褰葦箔當壚
女素俎金刀切玉来

春夜乘舟下淀河

伏水春流下淀川朧〻月色對愁眠八間樓下天將
曉一夢宛如五十年

文化丁丑初春將刪旧稿點竄一二今亦思
之幾十七年矣

六十九翁南畝覃

国立公文書館
National Archives of Japan